

## 2019年9月8日実施 2級FP技能検定試験（学科、実技：資産設計提案業務）について

### <学科試験>

#### ■出題傾向

一部に過去の形式と異なる問題が出題されたが、過去問と類似した基本的な問題が多く、従来と比べて大きな変化はない。

#### ■問題のレベル

従来と比べ、『ライフプランニングと資金計画』および『不動産』がやや難しく、『リスク管理』がやや易しかった。

このように科目によって多少のばらつきがあったが、基礎知識を問うような標準的な問題が多く、総じていえば従来と同レベルといえる。

#### ■特記事項

『リスク管理』において、個人年金保険に関する出題が2問、損害保険分野からの出題が4問とこれまでよりも出題数が多く、問題の構成に変化がみられた。

正解肢で詳細な知識を問うものも散見されたが、過去の傾向を分析し、これを踏まえて基本事項を確実に押さえていた受検生は、合格ラインに到達できたと思われる。

### <実技試験>

#### ■出題傾向

従来どおり、過去に出題された問題の類似問題が多く、出題傾向に大きな変化はない。

#### ■問題のレベル

どの科目においても基本的な知識や資料の読取りを問う問題が多く、従来と同レベルといえる。

#### ■特記事項

問13の「医療保険の入院給付金の日数」、問32の「収入保障保険から支払われる年金総額」、問38の「相続税の課税遺産総額」のように従来とは異なる切り口の問題も散見された。丸暗記ではなく、本質的な理解が求められている。

<総括>

学科試験は、どの科目も従来から問われていることが多く出題されているので、しっかりと対策をとってきた受検生にとっては得点しやすかったと思われる。特に『タックスプランニング』は過去に問われた内容が繰り返し出題される傾向が強い。

実技試験は、目新しい問題や設定を複雑にした問題はあるものの、定番問題をしっかり取っていけば、合格点はクリアできる内容である。なお、実技試験は計算問題が多く、時間が足りなくなることも想定されるため、時間配分には注意が必要である。

※このシートは、2019年9月8日に実施された試験を、山田コンサルティンググループが独自に分析し総括したものです。あらかじめご了承ください。